

令和6年度 江戸川区立江戸川小学校 学校関係者評価報告書（学校経営計画・学校関係者評価シート）

学校教育目標	自他ともに認め合い、主体的に行動する人		目指す学校像 目指す生徒像 目指す教師像	保護者・地域とともに共育・協働する学校 自他ともに認め合い、主体的に行動できる児童 教え育むプロとしての指導力がある教師
前年度までの本校の現状	成果	<成果> ○児童一人一人の状況に応じたきめの細かい指導や支援を工夫しようと学校全体で意欲的に取り組み、教育活動を充実させることができた。	課題	<課題> ○さらなる児童理解と、個別最適な学びを保障するための学習指導力、生活指導力の向上が必要である。

重点	取組項目	具体的な取組内容	数値目標	達成度		「中間」自己（学校）評価（A～D）		「中間」学校関係者評価（A～D）		「年度末」自己（学校）評価（A～D）		「年度末」学校関係者評価（A～D）		次年度に向けた改善案	
				9月	2月	評価	コメント	評価	コメント	評価	コメント	評価	コメント		
学力の向上	○授業改善の推進、学習の基盤となる基礎・基本の確実な習得、家庭学習習慣に対する学校の組織的な対応による取組の実施・充実	・授業展開の統一化「めあて」「個で考える」「学び合う」「振り返り」を流れで実施	・児童アンケートにおいて80%以上が肯定的評価	A	A	A	児童・保護者共に肯定的評価が80%を超えている。取組みを継続していく。	A	良好である。	A	最終評価では、保護者の肯定的評価が85%になった。取組みを継続するとともに、さらなる授業改善に務める。	A	良好である。	次年度は、「学び合う」活動に焦点を当てた授業改善に取り組む。	
		・毎学期、東京ベーシックドリルの診断テスト、漢字テストの実施	・全児童の伸び率が5%向上	B	B	B	結果の分析途中であるが、学年によっては伸びている児童がいる。一層向上するように取り組んでいく。	B	取組の継続を期待している。	B	学年によっては伸びている。全学年、上昇するように個別指導を充実させる。	B	学力をさらに上げるような取組を期待する。	児童の実態分析を行い、個別指導を充実させる。	
	○読書科の更なる充実	・探究的な学習を全学年年間12時間実施 ・高学年で毎週1回、探究的な自主学習を実施	・実施100%	B	B	B	読書科の学習につながる探究的な学習を実施している。10月からは、全学年で探究的な自主学習を行う。	B	取組の継続を期している。	C	一部の学年で取組の開始時期が遅れた。読書科の学習につながる探究的な学習を計画的に実施する。	B	取組の継続を期待している。	計画的に実施できるよう、年度当初に職員への周知を徹底する。	
体力の向上	○個に応じた体力向上のための取り組みの実施・充実	・始業前の全校運動遊び、朝運動の実施	・児童アンケートにおいて、80%以上が肯定的評価	A	A	A	児童の肯定的評価は90%を超えている。今後も取組を継続していく。	A	取組の継続を期待している。	A	児童の肯定的評価が4%減少した。活動内容を改善し、児童がより意欲的に取り組めるようにする。	A	体力がさらに向上するように、取組の継続を期待する。	年間計画を見直し、活動内容を充実させる。	
		・学期に1回のなわ跳び週間の設定	・80%以上の児童が江戸川区なわ跳びコンテストに参加	B	B	B	児童はコンテストに意欲的に取り組んでいる。継続していく。	B	取組の継続を期待している。	B	児童はコンテストに意欲的に取り組めた。次年度も継続する。	B	取組の継続を期待している。	実施期間の周知を徹底して、活動を充実させる。	
実現に向けた教育の推進	○ユニバーサルデザインの視点を取り入れた個に応じた指導の実施・充実	・巡回指導や特別支援教室専門員の活用	・毎月1回、管理職と特別支援教育担当教員等との打ち合わせを実施	B	B	B	打ち合わせは実施してきている。今後も担任の指導が充実するように、連携する。	B	取組の継続を期待。	B	年間を通じて、定期的に打ち合わせを行うことができた。	B	取組の継続を期待する。	今後は家庭との連携が促進するような周知の方法を検討する。	
		○定期的な異学年交流の実施	・毎月1回、異学年交流（なかよし班活動）の実施	・児童アンケートにおいて、80%以上が肯定的評価	A	A	A	児童の肯定的評価は80%を超えている。今後も、児童が友達と関わろうする意欲を高められるような活動を継続する。	A	取組の継続を期待。	A	10ポイントほど児童の自己有用感が高まる結果となった。	A	特色の一つになっている。内容の充実に期待する。	児童が友達と関わろうする意欲を高められるような活動を継続する。
		○児童養護施設等との連携	・毎学期1回、関係諸機関との連絡協議会の実施	・各学期1回以上の連携協議会の実施	A	A	A	学校から積極的に働き掛けることで、連絡会を開催することができている。今後も継続していく。	A	取組の継続を期待。	A	学校から積極的に働き掛けることで、連絡会を開催することができている。今後も継続していく。	A	配慮の必要な子どもについては、大切なことである。継続してほしい。	より組織的に対応できるように担当を新設する。
不登校・いじめ対応	○不登校対策の実施・充実	・毎週1回生活指導夕会を設定及び情報共有	・100%実施	A	A	A	情報共有だけでなく、教員自らが、たくさんの児童と積極的に関わるようにしている。今後も継続する。	A	取組の継続を期待している。	A	担当学年だけでなく、他学年についても積極的に関わっている。今後も継続する。	A	取組の継続を期待している。	副担任も発言する場面を設定することで、より情報共有を密に行う。	
		○hyper-QUの活用	・QUテストの児童の実態把握に基づいた指導の推進	・年に1回校内でQU研修会を実施	A	B	A	QUテストを担当が分析し、今後の方針を保護者に伝えるようにしている。今後も継続していく。	A	取組の継続を期待している。	C	Lgateの導入も行き、より児童の様子が分かるようにしたが、実施時期が遅れた。	A	取組の継続を期待している。	年度当初より計画的に実施できるように今年度中に準備する。

心の充実	○教育相談の強化	・スクールカウンセラー、 スクールソーシャルワーカーとの連携強化	・不登校児童とのSC、SSW連携率100%	A	B	A	登校が渋りがちな児童の家庭とSSWとをつなぐことができた。今後も継続する。	A	取組の継続を期待している。	B	登校が渋りがちな児童の家庭とSSWとの信頼関係ができてい る。今後も継続する。	B	取組の継続を期待している。	SCも積極的に関わることができるよう時間設定を工夫する。
学校（園）の地域社会に開かれた実現	○学校ホームページの充実等	・学校ホームページの更新	・毎週2回更新を行う	B	B	B	毎週1回更新は実施できているが、2回更新できていない学年がある。全学年の達成を目指す。	B	良好である。	B	全学級が、目標達成することはできなかったが、週1.5回程度は更新した。	A	取組の継続を期待している。	副担任制を実施することで複数の教員が更新できるようにする。
	○学校関係者評価の充実	・每学期1回、学校評議員を招待し、参観を依頼	・児童、保護者、地域の学校の教育活動への肯定的評価が80%以上	A	A	A	ふれあい給食も実施し、様々な機会を通じて児童の様子を見てもらえるようにしている。継続する。	A	学校から連携しようとする姿勢を評価している。今後も継続を期待している。	A	様々な機会を通じて児童の様子を見てもらえるようにした。継続する。	A	取組の継続を期待している。	2学期に公開期間の設定を増やす。
教育の特色ある展開	○働き方改革の推進	・月1回の定時退勤日の設定	・全教職員の月残業時間55時間以下	B	B	B	定時退勤を促しているが、残業の続く教員もいる。今後も改善に努めていく。	B	取組の継続を期待している。	C	時間外の対応を求める保護者もあり、調整の難しい場面があった。	B	対応に感謝する。保護者の理解をより促進する必要があるが、心情に寄り添いながら対応を継続してほしい。	定時退勤日は全員が6時までには退勤できるよう促していく。
	○教員研修の実施	・教員が互いに授業を参観し合う授業公開Weekを每学期1回実施	・80%以上の教員が研究授業を実施	B	A	B	研究授業を予定通り実施している。授業公開だけでなく、さらなる改善が図れるように、意見交換の機会を設定していく。	B	取組の継続を期待している。	A	授業公開だけでなく、OJT研修などの機会を利用し、授業改善に努めることができた。	A	取組の継続を期待している。	全教員が年1回は、研究授業に関わる公開授業を実施するようにする。
	○人権教育の推進	・年6回、教職員の人権教育研修を実施	・100%実施	A	A	A	9月の時点で、予定していた6回の研修は実施することができた。継続して取り組んでいく。	A	取組の継続を期待している。	A	全教職員が人権に配慮した発言を心掛けるようになった。	A	取組の継続を期待している。	人権に配慮したチェックシートを活用して、日々の指導に生かす。